

平成22年度 学位記授与式

3月17日(木)、本学石井記念体育館で、学位記授与式が挙行されました。

本学を巣立つ、学部生591人、大学院生43人、委託生1人に澤岡昭学長は「大同大学は永遠に君たちのふるさとです。健康に気を付け、困難を笑って乗り越え、元気で愉快な人生を送られることを、心から願っています。」と告辞を述べました。

卒業生総代の渡辺卓さん(工学部 機械工学科)は「どんなに大きな壁にぶつかったとしても、この大同大学での経験を活かし、自分自身に挑戦する姿勢で一歩一歩前進し、全力でそれを乗り越えて行きたいと思っています。」と力強く答えました。



▲答辞を述べる渡辺さん

No.74 2011.4 DAIDO CAMPUS

02 入学式/学生の勇姿 07 学科・専攻、研究室ニュース 10 トコトン先生大活躍
13 やるじゃんトビックス!! 16 学位記授与式・卒業パーティ/人事



写真提供:アルバム委員会

学長賞(学部)

機械工学科	
寺嶋 豊希 (指導教員/平 博仁)	野田 拓男 (指導教員/山田 喜一)
ロボティクス学科	
桂山 朋也 (指導教員/橋口 宏衛)	小崎 俊希 (指導教員/西堀 賢司)
電気電子工学科	
立花 光由 (指導教員/佐藤 義久)	
建築学科	
早川 貴大 (指導教員/宇野 享)	小室 雄大 (指導教員/中島 貴光)
都市環境デザイン学科	
加藤 俊宏 (指導教員/水澤 富作)	
情報学科	
小島 将史 (指導教員/遠藤 敏夫)	竹内 志織 (指導教員/高木 基充)
機械工学科	
濱田 竜士 (指導教員/土田 豊)	

学長賞(大学院)

機械工学専攻	
加藤 強 (指導教員/土田 豊)	近藤 政芳 (指導教員/小林 正典)
電気電子工学専攻	
吉嶺 和哉 (指導教員/佐藤 義久)	新海 安裕 (指導教員/坂倉 守昭)
建築学専攻	
入波 平 さやか (指導教員/宇野 享)	杉山 博紀 (指導教員/宇野 享)
都市環境デザイン学専攻	
戸田 智規 (指導教員/水澤 富作)	窪田 豪人 (指導教員/棚橋 秀行)
情報学専攻	
田中 浩之 (指導教員/遠藤 敏夫)	大石 勇起 (指導教員/横山 弥生)

三好賞

機械工学専攻	
岩瀬 広幸 (指導教員/野田 卓)	
ロボティクス学科	
小出 真澄 (指導教員/橋口 宏衛)	
電気電子工学専攻	
渡辺 智貴 (指導教員/橋本 幸雄)	
建築学専攻	
黒野 領太 (指導教員/笠嶋 泰)	
都市環境デザイン学専攻	
佐野 豊生 (指導教員/棚橋 秀行)	
情報学科	
吉川 竜貴 (指導教員/国立 勉)	

卒業パーティーの規模縮小による大震災支援

去る3月17日(木)、学位記授与式終了後、名古屋観光ホテルにて卒業パーティーを行いました。



▲奥村博司理事長のメール

今年度の卒業パーティーは、この度の東北地方太平洋沖地震並びに長野県北部を震源とする地震およびそれらを起因とした津波災害による被害を鑑み、卒業パーティー実行委員会(委員長:工学研究科 修士課程

電気・電子工学専攻2年 吉嶺和哉)の判断でアルコール類の自粛と予算規模の縮小を実施しました。これにより、当初の予算との差額分を被災地域への義援金に充てることになりました。

関東・東北大震災によって被災された人々が苦しんでいるなか、自分たちができることは何かと考え、ただ単に会場で義援金を集めて送るだけでなく、自分たちも何らかの身を切ることで少しでも被災された人々と心をひとつにしたいとの思いから、実行委員会より自発的に実施されたものです。

吉嶺実行委員長は、「差額により捻出できた金

額と当日に義援金を募った分を被災地への早期復興につなげていただきたい」と話していました。

企画運営いただいた卒業パーティー実行委員会の皆さま、卒業パーティーに参加された皆さま、ご協力ありがとうございました。本学からも御礼申し上げます。



▲吉嶺実行委員長のあいさつ

- 退任** (H23.3.31)
井上 茂樹 大同大学 副学長
- 就任** (H23.4.1)
大嶋 和彦 大同大学 副学長
- 退職** 【法人本部・大学】
 - <教育職員> (H23.3.31)
下島 榮一 工学部 都市環境デザイン学科 教授
加藤 光廣 工学部 機械工学科 准教授
杉浦 正勝 工学部 機械工学科 特任教員
小野 宗憲 工学部 総合機械工学科 特任教員
岩間 三郎 工学部 電気電子工学科 特任教員
鳥野 壽章 情報学部 情報システム学科 特任教員
 - <事務職員> (H23.3.31)
香川 敏和 総務部 総務室 主任部員
 - <用務職員> (H23.3.31)
柴田 忠市 総務部 総務室

- 採用** 【大学】
 - <教育職員> (H23.4.1)
森脇 克巳 工学部 機械工学科教授
山田 靖 工学部 電気電子工学科教授
中島 貴光 工学部 建築学科講師
棚村 壽三 情報学部 情報デザイン学科講師
加藤 光廣 工学部 機械工学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
山田忠比古 工学部 電気電子工学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
下島 榮一 工学部 都市環境デザイン学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
五島利兵衛 工学部 建築学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
岩間 尚文 情報学部 情報システム学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
早川 謙二 情報学部 情報システム学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
三品 善昭 情報学部 情報システム学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
川戸 和英 情報学部 情報デザイン学科特任教員(任期:H23.4.1~H24.3.31)
 - <事務職員> (H23.4.1)
大石 勇起 大学事務部 学生室
小口 洋司 大学事務部 教務室
後藤 菜月 法人本部 入試・広報室
- 昇任** 【大学】
 - <教育職員> (H23.4.1)
町屋修太郎 工学部 機械工学科准教授
 - <事務職員> (H23.4.1)
伊藤 雅士 主査
錦織 整 主査



東北地方太平洋沖地震をはじめとする災害で被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



平成23年度 入学式

これ以上ないほどの晴天に恵まれた、4月4日(月)。本学石井記念体育館で入学式を挙げる。学部生841人、大学院生49人、委託生1人が、大同大学の門をくぐりました。

式では、澤岡昭学長が東北関東大地震に触れ「苦みの後には、必ず明るい未来が開けるものです。その扉を開く大きな力が君たち一人ひとりなのです。入学式にあたり、まずは希望をもって明るく頑張ろう」とエールを送りました。

新入生を代表して、彦坂和秀さん(工学部総合機械工学科 機械システム専攻)は「これから本学で過ごす中で楽しいことだけではなく、つらいことも、苦しいこともきっとあるでしょう。けれども私たちにはたくさんの仲間がいて、頼れる先輩や先生方がいらっしゃいます。そんな心強い味方がいれば、どんなつらいことも苦しいことも、きっと乗り越えることができると信じています。そして今後の人生



▲学長告辞

の大切な糧となることを念頭に置き、人との巡り合いから得られることを大切に、勉学と課外活動に励み、実り多き学生生活を送る所存です」と力強く宣誓しました。

式後は、在学生たちが「WELCOME TO DU」を開き、新入生を歓迎。昨年11月に完成したゴビーステージでコンサートやピンゴ大会、模擬店を行いました。

クラブ・サークル学生による熱心な新入部員勧誘も繰り上げられ、新入生たちの大同大学生活初日を祝福していました。

また、今回で2回目の開催となった「後援会

新入生父母懇談会」には、400人を超える参加がありました。



▲入学生宣誓

坂本健太郎さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻2年)ほか「CBCふるさと市民エコジャーナリスト(ビデオ部門)」において、準グランプリ受賞

CBCテレビ広報部が主催する「CBCふるさと市民エコジャーナリスト」に、坂本健太郎さんを中心として平松健太郎さん、水谷桂輔さん、正木洋太さん、石原ひとみさんの5人が共同制作した作品「家庭でできるエコ」を出展。およそ200点の応募作品の中から、準グランプリ(ビデオ部門)を受賞しました。「廃油を使ったキャンドル製作」をテーマ

に、身近な人物や地域社会に寄り添う語り口が評価されました。

3月12日(土)、CBCテレビで表彰式が行われる予定でしたが、前日に起きた「東北地方太平洋沖地震」の影響により、表彰式が中止。

後日、CBCより、表彰状とトロフィーが送られてきました。



金子昌裕さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻1年)CGクリエイター検定Webデザイン部門ベーシック「文部科学大臣奨励賞」、受賞。

文部科学大臣奨励賞は、優秀な成績をおさめた人を財団法人画像情報教育振興協会から文部科学大臣に推薦され、大臣より奨励のための賞状が贈られるもの。この栄えある賞に金子さんが輝きました。

2010年11月28日(日)に開催された、CGクリエイター検定Webデザイン部門ベーシックにおいて、受験生779人中、第1位の得点を獲得し、成績最優秀者となりました。

2011年3月29日(火)、協会より小路専務理事をはじめ、3人が来学。表彰式が行われました。

コンピュータミュージック業界で活躍することを目指している金子さん。その夢に向かって、「映像」「情報デザイン」「コンピュータサウ



▲小路専務理事(左)

ンド」「広告」など、広く学べる本学メディアデザイン専攻に入学。2010年8月19日(木)より開講された、本学キャリアセンター主催の講座に参加。今回の受賞に繋がりました。

表彰式後、すぐに澤岡昭学長に報告。なかなか経験できない出来事の連続に終始、緊張気味だった金子さんは現在まだ1年生。彼の今後、さらなる活躍が楽しみです。



▲澤岡学長(右)



杉野亮さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻2年)作品展「ヒッチハイク 思い出の300枚」、開催。

2010年8月、「人生の糧になる旅を」と、地元養老町(岐阜県)からヒッチハイクの旅をスタート。さまざまな人と触れ合いながら、12日間。アートが盛んな香川県直島や高知県桂浜など、西日本の各地を巡りました。

大学教授や画家、トラックの運転手など、28台の自動車に乗せてもらった杉野さん。なかには自宅に泊めてくれた人も。「人の優し

さに感動した」と振り返る。旅先で撮影した写真や目的地で描いたスケッチブックが「カフェギャラリー悠友」(岐阜市加納東陽町)に展示されました。この作品展は10日間開かれ、カフェに訪れるお客様を惹きつけていました。

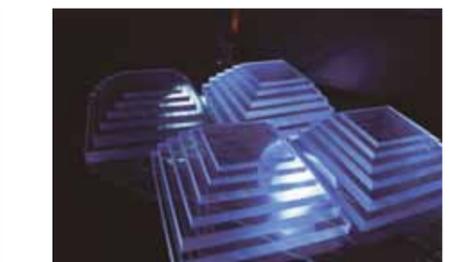
この情報は中日新聞(1月21日)に紹介されました。

伊藤翔平さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻4年/高木基充研究室)「JID中部学生賞」受賞

高木研究室の伊藤さんは3月17日(木)、社団法人日本インテリアデザイナー協会より「JID中部学生賞」を授与されました。

この賞は、これからのインテリアデザイン界における活躍を期待される学生に贈られるもので、インテリア関係の学校・専門学校等に年一回・各校1人、授与されます。

学位記授与式当日の吉報、喜びもひとしおだったことでしょう。



畠山弘樹さん(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻1年/朝倉宏一研究室)「平成22年度電気関係学会東海支部連合大会」で奨励賞を受賞

発表テーマ/「DVS適用による消費電力削減のための効果的なタスク選択機構の提案」

2010年8月30日(月)・31日(火)の2日間、中部大学で行われた電気関係学会東海支部連合大会にて研究発表し、「連合大会奨励賞」を受賞することができました。

この研究は近年増加しているコンピュータの消費電力をシステム面から削減するという研究です。当初、プログラムのミスなどにより計測結果が芳しくなかったのですが、朝倉准教授にアドバイスをいただき無事発表に臨むことができました。

学会発表ではとても緊張したため、説明が早口になり質問に対して十分な返答ができないなど反省点も多かったのですが、提案した新しい削減手法は高い評価を得られ、奨励賞をいただくことができました。

全発表543件のうち、奨励賞はおよそ30件の発表のみいただける賞であり、自分の研究の重要性を再確認し、また成果に自信を持つことができました。今後も研究を続け、論文誌への投稿や学会発表など行っていきたいと思います。





中村夏生さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻2年)

「CHUBU PRODUCT DESIGN COMPETITION2010」で入選

井藤隆志准教授がプロデューサーを務めた、この事業のテーマは「中部地方において、デザイナーと地場産業の感性と技術を集結することにより、新たなものづくりにつながるヒントを探るとともに、デザインを通じて意匠制度をわかりやすい内容で普及・振興すること」で、ワークショップ形式のデザインコンペとして開催されました。

募集作品のテーマは「料理をおいしくする陶磁器デザイン」。日本における陶磁器産業の歴史はおよそ1200年。中部地方は、陶磁器産業の中心として食文化を牽引してきましたが、近年の不景気、海外製品の流入により、生産・売上は右肩下がりとなっています。この産業を活性化するために、生活者にとって最も身近である「食」をテーマとし、「おいしい料理」という視点から、陶磁器の新たなライフ

スタイルの提案が募集されました。

この事業に中村さんは挑戦。中部地方に在籍している学生・若手デザイナーを中心に多くの作品応募があったなか、パネルによる第1次審査(9/10)で、ワークショップに参加できる5作品に選出されました。

作品名は「スイカ」。スイカをおいしくみんなで、1つのお皿を囲みながら、仲良く食べられるようにと考えられた作品。スイカの新しい切り方まで提案した。審査したプロのデザイナーやインテリアショップの経営者からは「現代の家庭で失っているものを蘇らせることができる提案」「スイカ以外にも渥美半島の特産物であるメロンとコラボすれば、地域活性化に繋がる可能性がある」などと評価されました。



▲完成したスイカの皿、およびスイカをもとにサイズを検討する中村さん。



▲スイカのおいしい部分は中心なので、みんながおいしい部分を食べるためには中心から放射線状に切ることが理想的です。半分に切ったスイカをこの皿の中心にのせ、皿の線に沿って切ることでの切り方ができます。パーティーでケーキを食べるように、楽しい食卓を演出します。

オリエンテーション(8/22)から始まった、およそ2ヶ月間。日常では経験できないさまざまな出来事、たくさんの緊張・ふれあいの数々から、彼はデザイン力だけではなく、人間力も伸ばしたに違いありません。5人の選出者(他、大学院生3人・学部4年1人)のなか、最年少でチャレンジした中村さんの成長は特に大きかったであろうと期待しています。



試作品展示(10/13~17)

完成した試作品を展示し、公開。鑑賞した消費者と直接接し、アンケート・意見を伺いました。

公開プレゼンテーション(10/16)

プレゼンテーションの結果、中村さんは「入選作品」に選ばれました。「他にない特別な存在に発展できれば、十分に産地の活性化にも役立つ」と評価されました。

座談会(10/21)

4つの地域の職人さんを迎え、井藤プロデューサーほか、コーディネーターも交えて座談会を行いました。

第1回ワークショップ(9/15)

陶磁器工場の見学を行い、生産工程について学び、試作品製作の打ち合わせを行いました。

第2回ワークショップ(9/26)

陶磁器の型製作過程を学び、企業の職人を変え、試作品の形状についての打ち合わせを行いました。

北陸研究(9/28・29)

金沢市の陶芸工房、21世紀美術館、高岡市の高岡鋳物の工場を見学しました。

第3回ワークショップ(10/9)

陶磁器の釉薬について学び、協力企業と試作品の色付、形状詳細についての打ち合わせを行いました。

男子ハンドボール部

「レッツジュニアスポーツ体験交流イベント」に参加しました!

1月22日(土)、日本ガイシホールで「レッツジュニアスポーツ体験交流イベント」が開催され、本学男子ハンドボール部員がアシスタントのお兄さんとして参加しました。このイベントは、競技スポーツとは異なったスポーツを楽しく体験することで、より多くの子どもたちにスポーツをするきっかけをつくらうというもの。8回目を迎えた今年は、2000人を越える親子が参加し、元全日本バドミントン選手の小椋久美子さんと共に、ハンドボール、野球、サッカー、ソフトテニスに挑戦しました。今回のテーマは「コーディネーショントレーニング」。体と一緒に脳を鍛えることを目的とし、障害

物があつた場合のシュート方法やボールのコントロールなど、さまざまなトレーニングが紹介されました。

また2月8日(火)には、「小椋久美子が初挑戦!体と脳の4番勝負〜コーディネーショントレーニングのススめ〜」と題し、イベントの様子が東海テレビで放送され、ハンドボール部顧問の佐藤社一郎准教授(教養部 保健体育教室/情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻)と杉原潤也さん(情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻1年)がハンドボールを使った見事な技を披露しました。

大同大学吹奏楽団 25周年記念「定期演奏会」

3月13日(日)、名古屋市青少年文化センター「アートピアホール」で、大同大学吹奏楽団第25回定期演奏会を開催しました。

今年は、5年に1度のOB・OG合同ステージを開催。25周年記念として過去最高の人数となる現役生、OB・OG合わせておよそ70人の奏者がステージに集まりました。

演奏の前には東日本大震災の被害を受けた人たちに哀悼の意をこめ、団長の山森佳織さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻3年)を始め、参加者全員が、1分間の黙祷をささげました。

第1部シンフォニックステージでは「音楽祭のプレリュード」「PERSIS」「吹奏楽のための風之舞」「NOAH'S ARK」を演奏しました。

2曲目を終えたところで、学生部長の関谷昌久教授(工学部 電気電子工学科)が、「大変な被害を受けられた人たちにも、この演奏で少しでも元気を出していただき、早く復興することを心より願います」と挨拶しました。

第2部はこの会の名物になった企画ステージ。今年のタイトルは「はじめてのおつかい」。にわひよこ村のひよこ三姉妹とおやじ。いきなりおやじが倒れてしまい、おやじを助けるためにひよこたちは「伝説の木の実」を探しにいくというストーリーで、笑いあり、演奏ありと大いに盛り上がりました。

最終ステージの第3部ポップステージは計5曲。「BIRDLAND」「ニュー・シネマ・パラダイス」「サンチェスの子供たち」「TAKUMI/匠」「千と千尋の神隠しハイライト」が演奏されました。それぞれの曲で、卒団者が前に出て演奏するパフォーマンスがありました。

最終ステージ終了後も拍手がやまず、アンコール曲として、「君の瞳に恋してる」「スパニッシュフィーバー」の2曲が演奏されました。

今年は25周年OB・OG合同演奏会ということで、社会にもまれて出せるOB・OGの音と、現役生のフレッシュな音が混合した、迫力のある演奏会になりました。



平成22年度 卒業研究発表会





学生の勇姿! 平成22年度 クラブ活動結果報告(抜粋)

空手道部

- 東海地区大学空手道選手権大会 (4/11) 出場
- 秋季東海地区大学空手道選手権大会 (10/11) 出場
- 第19回大学高専空手道選手権大会 (10/24) 個人組手準優勝(R09 斎藤倫範)、団体形 4 位、団体組手準優勝

弓道部

- 愛知縣護国神社奉納弓道大会 (4/24) 出場
- 東海学生弓道選手権大会 (5/15~16) 出場
- 後期地区大会 (2/21) 団体2位(M08 後藤啓佑、A08 棚瀬裕介、A08 平山奨吾) 個人3位(M09 大澤正樹)
- 全日本学生弓道選手権大会 (7/4) 出場
- 名古屋弓道協会 50 射会 (7/4) 個人 優勝(E09 住田達哉) 団体準優勝(E09 住田達哉、M09 大澤正樹)
- 中日本弓道選手権大会 (9/12) 出場
- 男子リーグ戦 (9/5~9/26) 4 部リーグ優勝
- 男子リーグ戦入替戦 (11/7) 大同 89 中、愛知県 86 中、日福 81 中で勝利
- 新人戦 (12/4~5) 個人 4 位入賞(B10 豊吉祐伽)
- 第44回東海学生弓道連盟女子六十射会・男子百射会 (2/26~27) 出場(A08 棚瀬裕介)、(D09 加賀奈穂子)
- 第57回東海学生剣道選手権大会 (5/16) 出場
- 第53回東海学生剣道新人選手権大会 (6/13) 出場

剣道部

- 第57回東海学生剣道優勝大会 (9/12) 出場
- 第53回東海学生剣道新人優勝大会 (9/26) 出場
- 南区剣道大会 (12/12) 4 回戦(ベスト8) 敗退(S10023 木伏博道)

硬式テニス部

- 東海大学対抗テニスリーグ戦 (6/5~6) 出場
- 第60回東海学生新進テニス選手権大会 (9/4~11) 出場
- 2010 ダンロップワールドチャレンジテニストーナメント (11/22~25) 出場

硬式野球部

- 愛知大学野球連盟春季リーグ戦 (4/3~5/28) 5 部リーグ 7 勝 2 敗(第1位)
- 愛知大学野球連盟秋季リーグ戦 (9/4~11/8) 5 部リーグ 4 勝 7 敗(第4位)

サッカー部

- 愛知学生サッカー選手権大会 (4/11~5/9) 出場
- 愛知学生サッカーリーグ戦 (5/23~7/11) 出場

自動車部

- DITダートトライアル 兼 全中部学生ダートトライアル選手権 (5/1~5/2) 団体優勝(M07 鈴木太良、C07 小澤博司、R08 山本拓実) 個人優勝(C07 小澤博司)
- 学生ドリフト王座決定戦 東大会 (8/23~24) ドライバー 2 回戦出場(B08 筒井亮太)、メカニック無事終了
- 全中部学生ジムカーナ選手権 (8/28~29) ドライバー 団体 8 位 個人 16 位(C07 小澤博司)、37 位(R08 山本拓実)、39 位(M07 鈴木太良)、メカニック無事終了

スキー部

- 夏合宿 (8/17~19) 無事終了

漕艇部

- 全日本大学生選手権大会 (8/19~22) 舵手無クオドルブル 出場
- 市民スポーツ祭レガッタ (8/1) 舵手無クオドルブル 優勝 (B07 松浦侑紀、R08 西脇公洋、C10 原田拓馬、M10 生駒大貴)
- 中部学生新人戦 (9/18~19) タブルスカル 2 位(S10 金子将也、C10 加藤大貴)
- 名古屋レガッタ (10/3) タブルスカル 準決勝進出(O8 西脇公洋、S10 金子将也)

男子バスケットボール部

- 全第48回東海学生バスケットボールトーナメント (4/24) 出場
- 第81回東海学生バスケットボールリーグ戦 (8/9~25) 出場

バドミントン部

- 名古屋市バドミントン選手権大会 (2/14~28) ベスト 16(E07 林裕一)
- 第111回東海大学・第58回東海学生バドミントン選手権大会 (4/5~23) 団体戦5部リーグ戦2位敗退
- 第55回愛知学生新人バドミントン選手権大会 (9/6~9) 出場
- 第112回東海大学・第32回東海学生バドミントン選手権大会 (12/6~17) 出場

モーターサイクリススポーツ部

- 第28回大同大学ライティングスクール (5/30) 開催
- 合宿 (9/9~12) 部車 完走、バイク 完走
- 東海学生陸上競技対抗選手権大会 (5/14~16)
- 愛知陸上競技選手権大会名古屋支部予選 (6/5~6)

バレーボール部

- 2010年度第36回西日本バレーボール大学男子選手権大会(6/25~27) 出場
- 第128回東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会(4/24~5/22) 出場
- 第46回東海大学男女バレーボール選手権大会 (6/12~13) 2 勝 1 敗
- 第128回東海大学男女バレーボールリーグ戦男子入替戦(5/29) 2 部降格
- 第130回東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会 (9/18~19) 4 勝 3 敗
- 第63回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 (11/28~12/2) 3 勝 1 敗

ハンドボール部

- チャレンジディビジョン (10/31~2/28) 6 位
- 春季リーグ戦 (4/11~5/16) 4 位 優秀選手賞(D08 安藤寿樹)
- 東海学生ハンドボール選手権大会 (6/13・6/20) 優勝
- 国民体育大会成年の部愛知県予選会 (6/23~25) 2 回戦敗退
- 中部交流戦 (6/26~27) 4 位
- 西日本学生ハンドボール選手権大会 (7/10~13) リーグ 2 位
- 秋季リーグ戦 (9/4~10/10) 5 位 敢闘賞(B07 奥後佑樹)
- 全日本学生ハンドボール選手権大会 (11/19~23) 出場
- 愛知学生ハンドボール選手権大会 (11/28~12/5) 優勝



陸上競技部

- 第70回愛知陸上競技選手権大会 (7/17~18) 11 位(M09 小幡晶彦)
- 東海学生陸上競技夏季大会 (8/28) 砲丸投げ 4 位入賞(M09 小幡晶彦)、400m 3 組 3 着(D10 稲垣杜浩)

レーシングカート部

- 2010 地方カート選手権 FS-125 西地域第1戦 (4/23~25) 決勝ヒート 12 位(M08 葛西佑紀)
- SL 中日本シリーズ Rd.1 (2/6~7) 決勝ヒート 15 位(M08 葛西佑紀)
- カートレースinスズカ Rd.3 (4/30~5/2) 決勝ヒート 10 位(M08 葛西佑紀)
- 2010 SL レインボーシリーズ Rd.3 (5/30) 11 位(D09 藤田拓弘)
- 2010 SL レインボーシリーズ Rd.4 (7/4) 3 位(D09 藤田拓弘)、6 位(MM09 中嶋和人)
- カートレースinスズカ Rd.4 (7/16~18) 公式予選 10 位(M08 葛西佑紀)
- 第15回 L.I.K 全日本学生カート選手権 (8/18~19) 決勝 4 位・TT6 位(M08 葛西佑紀)、決勝 6 位・TT10 位(MM09 中嶋和人)、決勝 9 位・TT9 位(D09 藤田拓弘)、大学対抗 2 位
- SL 中日本シリーズ Rd.5 (8/21~22) TT18 位・予選ヒート 18 位・決勝ヒート 14 位(M08031 葛西佑紀)
- 2010 SL レインボーシリーズ最終戦 (12/12) TT4 位・予選 2 位・決勝 2 位(D09 藤田拓弘)

E・D・P・S部

- 第合宿 (9/10~13)
- こみつくトレジャー 17 (1/16) 参加

音楽研究部

- 大同大学大学祭ライブハウス ABBY ROAD (5/27~30)
- もちの木野外ライブ (2/20)
- 追いコンライブ (2/20)

吹奏楽団

- 柴田学区交通安全パレード (5/16) 柴田小学校 - 学区幹線道路 - 柴田小学校
- 大同大学大学祭 第45回宴祭 (5/29~30)
- 吹奏楽コンクール 一般の部 (8/1) 銅賞(D09 永津勇太)
- 第33回合同演奏会 (8/15)
- 柴田祭り (8/16)
- ゆたか作業所ふれあい祭り (10/16)
- 入学式・コピーステージ竣工式・学位記授与式

FILM部

- 第47回定期総会 特別対談会 (5/30) 撮影
- 大学祭・体育祭・レガッタ大会 撮影

ダンス同好会

- 学年別戦 (1/24) ダンス 2 位・ランバ 3 位・ルンバ 3 位(R08 岩田宗也)、ルンバ 2 位(R09 松村光)、クイック 1 位(A09 吉田陵平)、チャチャチャ 1 位・ルンバ 1 位(E09 池富勇輝)、総合 1 位(E09 池富勇輝、R08 岩田宗也)
- 第36回 旧七帝国大学選手権 (3/14) 総合 8 位(E09 池富勇輝)、ラテン 6 位(R09 松村光)
- 中部ラテン戦 (5/9) 総合 3 位(A09 吉田陵平)、総合 1 位(E09 池富勇輝)
- 八種目戦 (9/5) 新人戦 1 位(M10 齋藤健斗)

漫画研究部

- 東方名華祭 (4/11)
- コミックライブ in 名古屋 5 月 (5/5)
- 東方名月祭 (7/11)
- コミックマーケット 78 (8/13~15)
- 青春カップ 2 (9/5)
- ウッドベッカー 46 (10/31)
- 東方金銀魂 (11/7)

テーブルゲーム研究部

- コンベンション (3/6)

フットサル同好会

- KELME ユニフォーム争奪 CUP (7/25) 5 位

ラグビー同好会

- 東海学生 7 人制ラグビーフットボール大会 (4/4) 出場
- 東海学生ラグビーリーグ戦 (9/26) 出場
- 夏合宿 (8/27~29)



ロボット研究部

- 第9回 Robotchampionship (3/22)
- 第7回ロボロボステーション チャレンジカップ (3/6) ベスト 8 (R07 大竹章司)
- ロボファイト 11 (5/22) SRCO 本選 優勝(R09 有賀聡紀)、SRCO2×2 優勝(R08 井田勝也)
- 第18回 ROBO-ONE in 新発田 (8/28~29) 本戦出場(R08 竹中浩樹)
- かわさきロボット競技会 (8/27~29) 出場
- ロボコング 12 (8/7) SRC1.8kg 以下級 準優勝(E08 渡砂純一)、3 位(R07 加藤貴也)、SRC1.8kg 超級 3 位(R07 小出真澄)、SRC1.8kg 超級 3×3 優勝(R07 大竹章司)
- 第10回 RobotCompetitionSeries"BRAVE" (9/12) 敢闘賞受賞(R09 松野広幸)、トーナメントベスト 8 進出(B10 橋爪圭太、S10 白井善人)、バトルロイヤル決勝リーグ 3 位(S10 白井善人)
- ロボファイト 12 (11/6~7) SRC1.8kg 以下級 ベスト 8(R07 岡部兼弘、M10 片桐順平、S10 伊藤智哉)、SRC01.8kg 級 ベスト 8(R09 有賀聡紀)
- つくばチャレンジ 2010 (11/16~18) 実験走行
- ロボコング 13 (2/27) SRC1.8kg 以下級 優勝(R09 中川慎也)

卓球研究会

- 東海学生卓球春季リーグ戦 (5/15) 4 部 7 位
- 愛知県夏季卓球新人大会 (7/4) ブロック優勝シングルス(C09 杉本英治、B10 大見健誌)
- 東海学生卓球秋季リーグ戦 (9/8~10) 4 部 5 位
- 全日本卓球選手権大会 愛知県予選 (11/13) 出場
- 第42回東海学生卓球各別大会 (11/20) 出場

模型研究会

- 第13回全日本オラザク選手権 (9/1~12/25) ガンダム UC 部門雑誌掲載(B07 岸森亮介)、ガンダム部門雑誌掲載(B09 千田隆介、R09 小田廣文、R09 浦野康平、M09 石川雅也、D10 伊藤久祥、D10 本間敬士)
- 電撃ガンダム王決定戦 2010 (9/6~11/25) シニア部門雑誌掲載(R07 岸森亮介)

軟式野球部

- 春季大会 (3/22~5/24) 出場
- 秋季大会 (8/24~9/17) 出場
- 第33回全日本大学軟式野球選手権大会 (8/7~13) 出場

自転車研究会

- 豊田周辺サイクリング (5/7)

文芸研究会

- 第17回電撃小説大賞 (4/10~7/10)
- 第13回電撃トリリーグ (8/31~10/10)

女子ハンドボール部

- 東海学生ハンドボール春季リーグ戦 (4/11~5/23) 7 勝 優秀選手賞(D09 小林智美)
- 東海学生選手権大会 (6/13~20) 出場
- 東海学生ハンドボール秋季リーグ戦 (9/4~10/23) 出場 一部残留
- 愛知学生ハンドボール選手権大会 (11/28~12/5) 2 回戦敗退

※成績結果報告書提出分から抜粋して掲載しています。

佐藤義久研究室(工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻/工学部 電気電子工学科)

「太陽光発電 実証研究」INAXと共同で進む

太陽電池を水で冷やすことで発電効率を引き上げる実証実験を、佐藤研究室は住宅設備機器製造のINAXと昨年5月より共同で行っています。今後

2年間データを集め、大型太陽光発電施設への実用化を目指しています。この研究は「原発依存軽減へ一躍担う太陽光

発電」としても期待されています。なお、この情報は3月26日(土)の中日新聞を始め、読売・毎日ほか多数の新聞に掲載されました。

キャンパスベンチャーグランプリ中部 見事、3年連続入賞!

日刊工業新聞社が主催する中部の学生による新事業提案コンペ「キャンパスベンチャーグランプリ中部」で、佐藤研究室のチーム、渡邊敬之さん・内山元気さん(大学院1年)、吉嶺和哉さん(大学院2年)、立花光由さん(学部4年)が提案した「Shape Memory Alloy Engine Project」が努力賞を受賞しました。

今回で佐藤研究室は、3年連続の受賞です。提案した内容は佐藤研究室で行っている、熱を加えることで元の形状に戻る性質を持つ合金を使った「形状記憶合金(SMA)を用いた新発電システム」。SMAエンジンを大量の排熱を出す発電所や工場に販売を行い、ビジネス化をしようというもの。審査は、書類審査とプレゼンテーション発表。「SMAエンジンの製造・販売が、いかにビジネスに向いているかを説明・表現するのに苦労しましたが、実際に企業で活躍されている方々から企業の

観点で批評や助言をいただくことができ、大変勉強になりました。今回この賞を受賞することができたのは、佐藤教授をはじめ、沢山の方々のご協力と、佐藤研究室でSMAエンジンの研究を行ってきた諸先輩方のおかげです」と話す彼らの姿から、日ごろの研究活動の充実振りがうかがえました。

2月1日(火)、名古屋マリオットアソシアホテルで、表彰式が行われました。



なごや発「学生ビジネスアイデア」で見事、優秀賞(1位)に輝く!

名古屋における新産業の創出、新事業の支援を図るため、大学のシーズを生かした新規性・独自性等のあふれる斬新なビジネスプランやアイデアを募集した、財団法人名古屋都市産業振興公社名古屋市新事業支援センター主催「大学発ベンチャービジネスプラングランプリ」。

この発表会と合わせて開催された「学生ビジネスアイデア」発表会に、佐藤研究室の渡邊敬之さん・内山元気さん(大学院1年)、立花光由さん(学部4年)がビジネスプラン「排熱を用いた新発電システム「SMAエンジン」」を提案。14大学42プランの

中から、見事、優秀賞(1位)に輝きました。1月24日(月)、名古屋市中小企業振興会館でおおよそ150人の来場者を前に15分間、緊張のプレゼンテーション。結果、優秀賞を手にした彼たち。「10月後半からプランを作るため、みんなでディスカッションして内容をブラッシュアップしてきました。改めて話し合うことの大切さを実感しました。また、このような経験ができたことは、これから社会人になる上で大きな自信になると思います。」と笑顔で話してくれました。

また、今回の活躍は、他の学生の模範となる

ものとして、3月23日(水)、澤岡昭学長より学長賞が授与されました。





工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻 西堀賢司研究室・橋口宏衛研究室

「あいち次世代ロボットフェスタ2011」に出展

1月7日(金)、8日(土)に愛知県主催の「あいち次世代ロボットフェスタ2011」が名古屋駅前のウインクあいち6F展示場で開催されました。本学からは西堀研究室が空中プランコロボットと小型二足歩行ロボット、橋口研究室がGPS無人移動ロボットを出展・実演しました。



1日目は社会人が多く、技術的な質疑が行われ、西堀教授は空中プランコロボットの開発についてプレゼンテーションを行いました。2日目は子供たちが多く来場し、ロボットの操縦体験は盛況！西堀・橋口両研究室の学生たちが説明と実演に対応しました。



工学部 都市環境デザイン学科

韓国東亜大学校との学科間交流会を開催

2月28日(月)、本学A棟14階に、東亜大学都市造景学科の教員5人を迎え、学科間交流会を開きました。都市環境デザイン学科からは7人の教員が参加。

また、学生交流については、その実施可能時期や人数、また単位互換やプロジェクトコンベンなど交流の方法について、意見交換しました。

会は自己紹介から賑やかな雰囲気ではじまり、各大学の規模・構成、就職率や教育評価システムなどについて、情報を交換しました。

平成23年度からの学生交流の実施を目指し、さらに将来的には学科間交流から大学間交流への発展についても話し合われました。



情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

ニュー・プロダクトデザイン展「デザインの空白」、開催。

会場:国際デザインセンター/デザインギャラリー 会期:3月23日(水)~28日(月) 主催:三原昌平研究室

デザインするべき領域はまだ圧倒的に未開の分野が多いという認識のもと、「改革」、「自然」、「お笑い」の3つのテーマで展開されています。いずれも、それぞれのテーマを新しいプロダクトデザインに結びつけることが前提で、新しい解釈に溢れた

ものとなっています。そうした意味で、ポスターやDMに使われている画像はCADで作られたデータで破壊と創造が表現されています。参加している学生は2年生4人、1年生3人です。



小林正典研究室(工学部 総合機械工学科 機械システム専攻)
山内五郎研究室(情報学部 情報デザイン学科 かわりデザイン専攻)

「第4回産学官連携交流会」でブース出展

12月8日(水)、大府市役所で「第4回産学官連携交流会」が開催されました。

講演のあと、本学小林教授と山内教授の各研究室が、会場に設けられたブースで、ポスターなどを使って研究内容を発表しました。

本交流会は、大府市と大府商工会議所が、地域産業の活性化と産学官の連携や交流を目指して開催しており、近隣の大学や公設研究機関などが参加しました。今年は医療・福祉機器分野が主要テーマでした。

本学からは、院生と学部生4人が本学ブースを訪れた参加者に対して、詳しい説明を行いました。



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

MEDIA WORK PROJECT EXHIBITION 2011

1月21日(金)から26日(水)、本学キャンパス内のメディアスタジオ「ユメディオ」で、「MEDIA WORK PROJECT EXHIBITION」を開催しました。

テーマはMWPIIが「スケートボードのブランディング、およびクロスメディアを使用しての広告展開」、MWPIが「自由テーマ「BOOK」制作ベスト10展」。

は映像やWebなどのさまざまなメディアを用いて表現し、相乗的な効果を期待することについてのグループ制作をおこないました。

この展覧会は、「メディアワークプロジェクトI(2年)・II(3年)」を受講している学生たちの授業課題作品を展示するもの。

MWPIIでは、株式会社アルペンの協力で、新スケートボードデザインのデザイン提案とクロスメディア展開(ある情報について、文字や音、あるいは

個性あふれる作品の数々と、説明してくれる学生たちの目の輝きに、今後の展開が大いに期待されます。



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 高木基充研究室・定国伸吾研究室・渡部裕子研究室

合同卒業研究発表展示をおこないました

2月12日(土)から16日(水)までの5日間、本学ユメディオの1階でメディアデザイン専攻の高木研究室・定国研究室・渡部研究室による合同卒業発表展示をおこないました。

デザイン、グラフィティ、タイポグラフィデザインなどの平面作品、また、Webデザイン、アプリケーション制作、アニメーション、絵本、インスタレーションなど、幅広い分野の作品を、各コンセプトとともに一挙展示しました。いままでの集大成を一目見ようと、たくさん

の人たちが会場に訪れたので、多くのご意見をいただくことができました。大学4年間で学んだデザインの技術とメディアに関する知識を持って、確かな未来へと羽ばたいてくれるよう一同期待しています。



トコトン先生
大活躍!澤岡 昭 学長
中日新聞連載
「宇宙は手の届くところに」

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、2009年6月より中日新聞で連載されています。

2月24日(木)に掲載されたミッション21「睡眠の話」では、国際宇宙ステーション(ISS)における宇宙飛行士たちの睡眠にまつわる話を紹介しています。

ISSは、90分で地球を一周するため、1日に16回も昼と夜が繰り返されている。しかも体が浮遊する無重力状態にあり、正常な睡眠をとるのが難しく、多くの宇宙飛行士が不眠に悩んでいるのだそう。せめて寝る時ぐらいい個室が必要だとの判断で、ISSには小型の公衆電話ボックスのような寝室を設置。飛行士は中に固定された寝袋の中で眠る。ボックス内には、照明やインターネット用のコンセントもあり、たくさんの私物がテープで固定され

乱雑な様相を呈しているが、ボックス内の自分の臭いに包まれるので「かえって心が休まり、ぐっすり眠れる」と語る飛行士も。

ISSの長期滞在には、ベストコンディションを保つために「睡眠」がとても重要。飛行士が常時携帯して睡眠状態を計測できる超小型脳波計の開発も進められており、不眠症の解決が期待されます。最後に学長は、「睡眠にはまだまだ未知の世界があるようだ」と話しています。

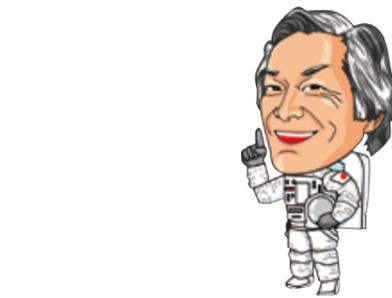
連載は、毎月第4木曜日に
掲載されています。
どうぞ、ご覧ください♪

中部アクリル樹脂工業会 講演会

2月8日(火)、コンベンションルームAP名古屋で、「中部アクリル樹脂工業会講演会」が開かれ、基調講演の講師を澤岡学長が務めました。「はやぶさ奇跡の生還」と「完成した宇宙実験

棟きぼう」と題して講演。

講演後の質疑応答では、「いまの技術力で実際に月面基地建设は可能ですか?」など積極的な質問が出ていました。



2月24日(木) ミッション21「睡眠の話」

最後に澤岡学長は、「アクリルの素材としての将来性は、無限の広がりを持っていますから頑張ってください」と参加の会員に向けエールを送りました。

佐藤義久 教授 (工学部 電気電子工学科)

電気自動車「i-MiEV」の社会実験報告書を提出

中部三菱自動車株式会社が愛知県産業労働局を通して、佐藤教授のもとに「電気車の専門家から見た電気自動車の社会的価値評価(社会実験)」の依頼がありました。

それを受け、実施期間2010年10月1日から2011年3月31日までの6ヶ月間試乗し、良い点・問題点を抽出しました。

実施拠点は、本学滝春キャンパス。主な試乗者は佐藤教授ほか20人(教職員等)。

試乗後に2種類のアンケート(三菱自動車のアンケート、大学独自のアンケート)に答えてもらい、その結果を以下の8種類に分けて分析しました。

1. 運転性能
2. 走行距離
3. 充電時間
4. 充電方式
5. 価格
6. デザイン
7. 用途
8. その他(自由記述の意見、コメントなど)

【報告書抜粋】

走行性能には84%の人が満足しているが、現状の走行距離に満足している人は僅か1%しかおらず、93%の人が100~300kmを希望している。

充電時間は一晩(6~12時間)が妥当であると考えている人が85%であり、充電方式は

家庭と同じAC100Vを望む人が65%である。

価格に関しては150万円以下が45%、100~200万円が51%であり、やはり、現在の軽自動車並みの価格でないとならぬようである。

その他充電プラグの強度、夜間の操作性、充電電圧はAC100Vが妥当等の意見を付けて報告した。



冬の試乗で明らかになった事項...電気自動車は熱源(エンジン)がないので冬は寒くて乗れない(寒冷地には不適)。

実験は10月~3月だったので、今年の夏(7月~9月)、再度、社会実験(夏場の評価)を実施する予定です。

小林正典 教授 (工学部 総合機械工学科 機械システム専攻)

『Marquis Who's Who in America 2011 (65th Edition)』に掲載されました

『Marquis Who's Who』は米国の出版社による著名人の略歴を掲載した年鑑版紳士録。そのシリーズの「in America (米国内・全分野)」に小林教授が掲載されました。

なぜ日本人の小林教授が「in the world (全世界・全分野)」ではなく、「in America」に掲載されたかという理由はこうだ。

Who's Whoへの掲載は今回が初めてではない小林教授。先回はアメリカに留学中、ハーバード大学の研究員であったため「in America」に掲載されました。

その後、日本へ帰国してからも何度かミネソタの打診があったが、特に放置。ただ、今回また掲載の意志打診があったので、久しぶりに登録したところ、日本にいるにもかかわらず、「in America」に掲載されたこと。しかし、小林教授はあえて訂正を依頼することなく、グリーンカード(アメリカ永住権)取得のためにはこちらの方が有利かと考え、再び放置しているとのこと…。

田中秀和 教授 (情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

航空機シンポジウム2011

1月26日(水)、名古屋銀行協会で、岐阜県技術士会主催「航空機シンポジウム2011」が開かれ、150人を越える参加者が集まりました。

2011年は国産航空機が初飛行してから100年目にあたります。低迷する地方経済を少しでも活性化すべく、航空機産業がますます発展するようお願いしつつ、航空宇宙関係の専門講師を招いたシンポジウムを技術士会で企画。代表でもある田中教授は開会のあいさつを務めました。



高山 努 准教授 (教養部 化学教室)

「国際化学オリンピック」準備問題の日本語翻訳に協力

国際化学オリンピックは、1968年に東欧3カ国(ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド)が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会です。1984年にアメリカ合衆国が参加して以来、急激に参加国が増え、今では例年およそ60ヶ国から200人を超える高校生が参加。日本は2003年に初参加、以来毎年4人の代表生徒が参加し好成績を

取めています。

その国際化学オリンピックの準備問題の日本語翻訳に高山准教授が協力しました。高山准教授が協力するのは今回で4年目。今年開催される第43回は「トルコ大会」。7月、トルコ共和国の首都「アンカラ」に70を超える国、300人ほどの高校生が世界各地から集う化学の祭典となるものと予想されます。なお、日本代表は現在選考中

大東憲二 教授 (工学部 都市環境デザイン学科)

「なごや環境大学」講座講師を担当

「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」。行動する市民、協働する市民として、「共に育つ(共育)」ことをめざしている、まちじゅうがキャンパス「なごや環境大学」。

その事業で市民講座の講師を大東教授が担当しました。

身近な自然環境を知りたい人、およそ30人が集まった教室で講座「私たちの足もとの地盤環境~濃尾平野の沖積層~」を開講。全5回のうち、2回登場。

12月9日(木)の「濃尾平野の地下水と地盤沈下」では、濃尾平野の地下水利用と広域地盤沈下、地盤沈下防止のための揚水規制、今後の地下水利用について説明しました。

2月17日(木)の「地盤情報システムとその利用」では、地盤情報の整理とデータベース化の必要性、GIS(地理情報システム)の利用例について説明しました。

並木浩一 教授 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

スイス・ジュネーブ「国際高級時計展」をレポート

高級時計ブランドが新作を発表する、2011-12年秋冬コレクション「国際高級時計展(SIHH)」が1月17日(月)~21日(金)、スイスのジュネーブで開催されました。21回目の今年は、カルティエなど19ブランドが出演。

時計ジャーナリストとしても活躍している並木教授が、新作の傾向や高級時計市場の動向について、現地で取材。レポートが読売新聞(2/16)に掲載されました。

並木教授は紙面で「雑誌編集者として90年代から時計業界を取材。昨春から、大同大学(名古屋)教授。専門はメディア論。著書に「腕時計一生もの」(光文社新書)など。」と紹介されています。



トコトン先生
大活躍!

光田 恵 教授 (情報学部 情報デザイン学科 かわりデザイン専攻)

ダイワハウス発行『住まいの手入れ学』を監修

全国のダイワハウスオーナーを対象に配布された、コミュニケーション誌「okaeri vol.12」。別冊『住まいの手入れ学ハンドブック』の監修を光田教授が務めました。

今回のテーマは「家の中のニオイ対策」。自分では気づかない、家の中のニオイ。1.いやなニオイの正体は?、2.いやなニオイ、予防と対策、3.消臭のしくみを知ろう...などの情報が掲載されています。

新任教員
紹介

森脇 克巳 教授 工学部 機械工学科

4月1日より機械工学科に着任しました森脇克巳です。大学院修了後、大阪市立工業研究所、滋賀県立短期大学、滋賀県立大学を経て大同大学に参りました。専門は制御工学で、研究テーマは制御システムの設計法に関する研究とその成果を応用した実システムの開発です。これまでは自動車や飛行機、船舶など移動体を制御対象として想定した、カメラなどから得られる画像の情報を用いて行う経路追従制御や自律移動制御、また、車椅子や盲導犬ロボットなど福祉機器を利用しているときの協調移動制御や機器が自律的に障害物回避制御の方法などを研究してきました。これからは人と機械の協調をめざすユニバーサル・デザインの観点からの制御システム設計法についても研究を進めたいと思っています。講義は制御工学や人間工学に関する科目などを担当します。「ものづくり」を目的とする工学において制御工学の重要性を学生の皆さんに実感してもらえるように努力します。



山田 靖 教授 工学部 電気電子工学科

2011年4月に工学部電気電子工学科に着任しました山田靖です。この3月までは、株式会社豊田中央研究所で、インバータや排ガスセンサなどの、自動車用エレクトロニクスに関する研究に25年間携わってきました。研究生活は長いですが、教育は新参者ですので、皆さんの声に耳を傾け、常に「改善」を行い、できる限りわかりやすい講義にしていきたいと思っています。

研究内容は、電子デバイスの性能を引き出す電子実装、回路、システムなどで、身の周りにある電気電子機器に結びつくような技術の開発を進めていきたいと考えています。

電気は目には見えませんが、エネルギー伝送、情報通信、制御など、皆さんの生活になくてはならないものになっています。しかし、それをうまく活用していくためには「技術」が必要です。大学には、その知識を学ぶ機会や環境があります。大いに活用して、将来に役立ててください。



棚村 壽三 講師 情報学部 情報デザイン学科 かわりデザイン専攻

かわりデザイン専攻に着任いたしました、棚村です。私は大同大学の卒業生であり、母校に勤められることを大変うれしく思います。長い学生時代を過ごしたこのキャンパスも、立場が変わると景色も変わったように思え、戸惑いながらも奮闘しています。

取り組んでいる研究は、空間や製品のにおいを測ること、その測定方法の開発です。においを数値化する手段は多くありますが、万能な方法が無いため測りたいにおいに合わせて方法を検討する必要があります。学部4年の時、おおいの研究に取り組んだのが始まりで、大学院生の頃は企業の研究所や他大学の研究室で多くの研究プロジェクトに参加させてもらいました。機械好きだから、研究でいろいろな測定器を使うことが楽しくて堪らなかったです。そこで、この研究に対する強いニーズがあることも知りました。

学生の皆さんには、世の中で何が重要とされており、自分が何に貢献できるかを意識してもらいたいです。充実した学生生活を送れるよう先輩としても応援しています。

海外提携大学「泰日工業大学(TNI)」トピックス

●3月9日(水) TNIバンディット副学長が来学
燃料電池の学術交流で意見交換

3月9日(水)、本学と学術交流協定を結んでいるThai-Nichi Institute of Technology(泰日工業大学以下TNIと記載)のバンディット副学長が来学され、澤岡昭学長と両大学の学術交流について意見交換されました。本学から2基の発電評価装置をTNIに寄贈するために、バンディット副学長とナッタポール先生の出席の下、川竹敬三常務理事並びに本学の関係者と寄贈について意見交換を行いました。バンディット副学長は、堀美知郎教授(工学部 機械工学科)と燃料電池に係わる研究について会談後、TNIからの研修学生の実習状況を見学し、また燃料電池研究センターを視察しました。

●3月4日(金)～14日(月) 副学長ジントワット先生とナッタポール先生が来学
燃料電池研究センターで技術研修

3月4日(金)～14日(月)、TNIの副学長ジントワット先生とナッタポール先生が、燃料電池発電の実習のために来学。本学燃料電池研究センターを訪問し、寄贈を予定する発電評価装置の据付け、配管工事、配線工事、およびデータの取得に関する実習を行いました。ナッタポール先生



は、かつて、東京大学に留学中、燃料電池のシミュレーション解析を実施していた経験を持っており、TNIにおいて実験と解析の両面から燃料電池の研究を立ち上げる計画です。

●3月6日(日)～3月19日(土) TNI学生(学生20人、引率教員1人)が本学に短期留学
創造製作センター中心に実習

TNIから男子学生16人、女子学生4人と引率教員1人の総勢21人が3月6日～3月26日まで21日間の予定で本学に短期留学し、創造製作センター実習講座を体験しました。

TNIはタイの産業を支える中堅技術者養成を目指して2007年6月にタイ・バンコクに設立された工業大学で、本学をモデルとして設備の充実を図ってきており、これからの発展が期待されています。

TNIは日本のものづくり文化に非常に高い関心を示しており、TNIにおけるものづくりの基盤を高めるために日本のものづくりの基本を体験させてはどうかとの本学の提案にTNIが応える形で今回2回目の短期留学による実習体験講座が実現しました。

創造製作センターでは溶融成型加工、接合加工、手仕上げ加工、CNC加工、旋盤加工・測定技術を修得し、情報システム学科ではコン



ピュータ制御技術を体験しました。

留学生たちは本学での実習体験以外に、三菱電機名古屋製作所の見学をし、休日等休みを利用して大規模散策も楽しみました。

しかしご承知のようにその後、東北関東大地震、津波、福島原子力発電所の事故がかさなり故国の両親の心配やTNI大学幹部の意向もあって1週間早めて帰国することになり、残されていた創造製作センターおよび情報システム学科での実習や、名古屋城観光は取り止めとなってしまいました。また待望していた桜の花も見れずじまい。それでも学生たちにはインパクトがあったようで「もう1度日本に来たい」、「大同大学に留学したい」と言い残して3月19日セントレアを後にしました。



ロボット工房・創造製作センター

『南区のものづくりを訪ねて』で紹介

歴史ある「名古屋のものづくり」の知識や技術を広く知ってもらうため、平成14年に名古屋市長有志による「ものづくり探検隊」が編成されました。「ものづくり探検隊」では、南区内の企業等を訪問しレポートを発行したり、訪問会社の製品を毎年3月に行われる「魅力発見フェスティバル」で展示するといった活動を行ってきました。

平成19年には本学へも来学。ロボット工房でサッカーロボットや2足歩行ロボットの見学、創造製作センターでは鋳造や自動車エンジンの分解・組み立て作業などを見学しました。

8年間にわたるものづくり探検隊の活動や、南区を支えるものづくりの技術・知識をもっと知って

ほしい、との思いから今回、『南区のものづくりを訪ねて』が刊行されることとなりました。この冊子には、ものづくり探検隊が訪問したりレポートがまとめられており、本学への訪問の様子も掲載されています。

『南区のものづくりを訪ねて』
～ものづくりのまち魅力発信事業～
発行:魅力ある南区をつくる会
(南区役所まちづくり推進室)
発行日:平成23年2月





「体験型科学教育フォーラム」を開催しました

3月12日(土)、本学滝春キャンパスで、NPO法人体験型科学教育研究所(リアルサイエンス)・大同大学共催「第4回体験型科学教育フォーラム」を開催しました。

午前中は小・中学生と保護者を対象とした理数ワークショップをはじめ、最先端の科学技術を研究している本学教授陣による、「燃料電池」「形状記憶合金」「電子顕微鏡」「超伝導」等を取り扱う科学体験ワークショップを開催しました。前日の地震の影響により、急な講師の交代等がありながらも、およそ200人の親子がさまざまなワークドキドキを体験し、科学の不思議に触れていただけた様子がそこかしこで見られました。

さらに教育関係者を対象とした環境教育への提案ワークショップも行い、30人の熱心な教員、および教育関係者にご参加いただきました。日頃、教えることが中心の先生たちが、生徒になり、目を輝かせてワークショップの課題に取り組む姿は大変印象的でした。

午後には筑波大学名誉教授の村上和雄氏による笑いっぱい基調講演に続いて、NHKの早川信夫氏司会、本学 澤岡昭学長、文部科学省藤原審議官、株式会社東芝白井CSR推進室長、リアルサイエンス 古川和理事をパネラーに「グローバル人材を育成するための理数教育とは?」をテーマとしたパネルディスカッションも開



▲パネラーの澤岡学長



▲水野義雄教授(教養部 保健体育教室)がリアルサイエンスに全面協力

催しました。一日を通しておよそ400人の人たちにご参加いただきました。メイン会場のゴビーホールでは、終日USTREAMによる生中継も行いました。



▲佐藤義久教授(工学部 電気電子工学科)のワークショップ「形状記憶合金の世界」



▲大東憲二教授・堀内将人教授(工学部 都市環境デザイン学科)の「授業で使える、教師のためのワークショップ」



▲ゴビーホールの様子



▲町屋修太郎准教授(工学部 機械工学科)のワークショップ「超伝導の世界」



▲堀美知郎教授(工学部 機械工学科)のワークショップ「燃料電池の世界」

学内企業説明会

平成23年度就職活動のスタートを切る「学内企業説明会」が、本年も2月1日から2月4日までの4日間、本学石井記念体育館で開催されました。長引く不況により企業の厳選採用が進む中、さまざまな要因が絡み合っ、就職戦線は一面的な買手市場となっています。その中で、不安を抱きながらも積極的に学内企業説明会に参加し、各企業の採用担当者の説明を聞く学生達の姿からは、この「景気悪化環境」を乗り越えていく強い意欲と熱意が感じられました。

本年の学内企業説明会参加企業数、ならびに学生延べ参加者数は以下の通りでした。

- 本年実績:企業数(370社)
- 学生延べ参加者数(1,825名)
- 昨年実績:企業数(346社)
- 学生延べ参加者数(1,885名)

今回の説明会では、機械系は例年どおり地元の製造業を中心とした機械メーカ及び機械設計を希望する学生が多く、電気系は東海地区を中心とした電設関係企業に興味を示す学生が多く

いました。建設系は、近年人気低下していたハウスメーカーへの希望が多くなり、卒業生が在職する大手建設会社も例年以上に人気がありました。また、情報システム系は、例年と同様ソフト開発企業を中心としたIT業界、情報デザイン系は、映像・印刷広告・ゲーム業界が高い人気を示していました。一方、学科専攻に拘らない業界への就職を希望する学生が増えたことも、今年の特徴でした。

来春卒業予定の学生は、「体系的キャリア教育の実践」として、1年次の自己発見セミナー「就職



就職Topics

キャリアセンター 内定率100%維持のために 精力的な取り組みを!

親の涵養と気づき」に始まり、2年次の「自己適正と労働観」「社会人と労働観」のセミナーを受講し、3年次ではきめ細かい「就職ガイダンス」において、「自己分析」「業界研究」「社会人基礎」等を体系的に学んでいます。それらにより昨年までと比較して「真剣かつ幅広い視野でキャリアデザイン」が出来る学生が増加したと感じています。

学生の皆さんには、雇用環境の厳しい現実を素直に受け止め、就職に対する「自分の思い」「気持ち(心)」を形にして、悔いのない積極的な「就職活動」を期待しています。



「第10回におい研究交流会」開催

3月11日(金)、におい研究センター主催の「第10回におい研究交流会」を本学B棟で開催し、業界関係者など89人が参加。同センター長の光田恵教授(情報学部 情報デザイン学科 においデザイン専攻)が司会を務め、澤岡昭学長が、開会の挨拶をしました。

始めに、特別講演として、東京都市大学 近藤靖史教授が「厨房の換気空調システムと空気環境」と題して、また(社)おいの科学研究所

山野善正理事長が「食の感性:おいしさの科学」と題して講演。

次に、におい研究センターにおける研究を報告しました。光田研究室の学生7人がサンスター技研(株)・東邦ガス(株)・パナソニック電気(株)との共同研究で調理時や高齢者施設の脱臭・換気、自動車内や喫煙所のたばこ臭について研究し、成果をプレゼンテーション。

最後に、におい研究センター 棚村壽

三研究員(現:においデザイン専攻 講師)が「住宅における調理臭の評価と制御方法に関する研究」を報告しました。

講演会終了後は、A棟14階ラウンジで懇親会を開催。この2時間前に東北関東大震災が発生したため、関東方面から参加した方は足早に会場を後にしましたが、51人が参加。業界関係者は意見交換し、交流。有意義な会となりました。



▲澤岡学長挨拶



▲近藤教授講演



▲懇親会 奥村博司理事長(左)と山野理事長



▲全体



▲山野理事長講演



▲懇親会

JAGDA愛知 サンデーデザインスクールを開講

11月21日(日)、本学を会場に日本グラフィックデザイナー協会主催「JAGDA愛知サンデーデザインスクール」が開講されました。

今年は本学高木基充教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)がJAGDA愛知に全面協力。県内の芸術系大学、専門学校14校の教員と学生およそ200人が本学に集まりました。

ゴビーホールでは、近県で活躍するデザイナーによる「愛知、岐阜、三重、静岡

のグラフィックデザイン業務情報」セミナーが行われました。

その後、B棟1階の学生ホールなどで、JAGDA会員による風呂敷展を開催。また同じ時間に「強いぞメンコ大会」も開かれ、参加した教員、学生たちを賑わせていました。



中国の韓山師範学院が本学を表敬訪問

1月28日(金)に、中国の韓山師範学院の庄東紅副学長、呉云影材料科学研究所長らが本学を表敬訪問しました。韓山師範学院は、唐時代の文人である韓愈ゆかりの地に建立され、学生数およそ1万人の総合大学 (<http://www.chinatefl.com/guangdong/teach/hanshantc.htm>)で、理学部、社会学部、文学部など11の学部と環境・応用化学研究所など7つの研究所から構成されています。



▲写真前列左から呉研究所長、庄副学長、奥村博司理事長、澤岡昭学長 後列左は山内五郎教授(情報学部 情報デザイン学科 においデザイン専攻)